

傳  
紀  
貫  
之  
寸  
松  
菴  
色  
紙

301  
10

帙  
入



始



傳紀貫之書

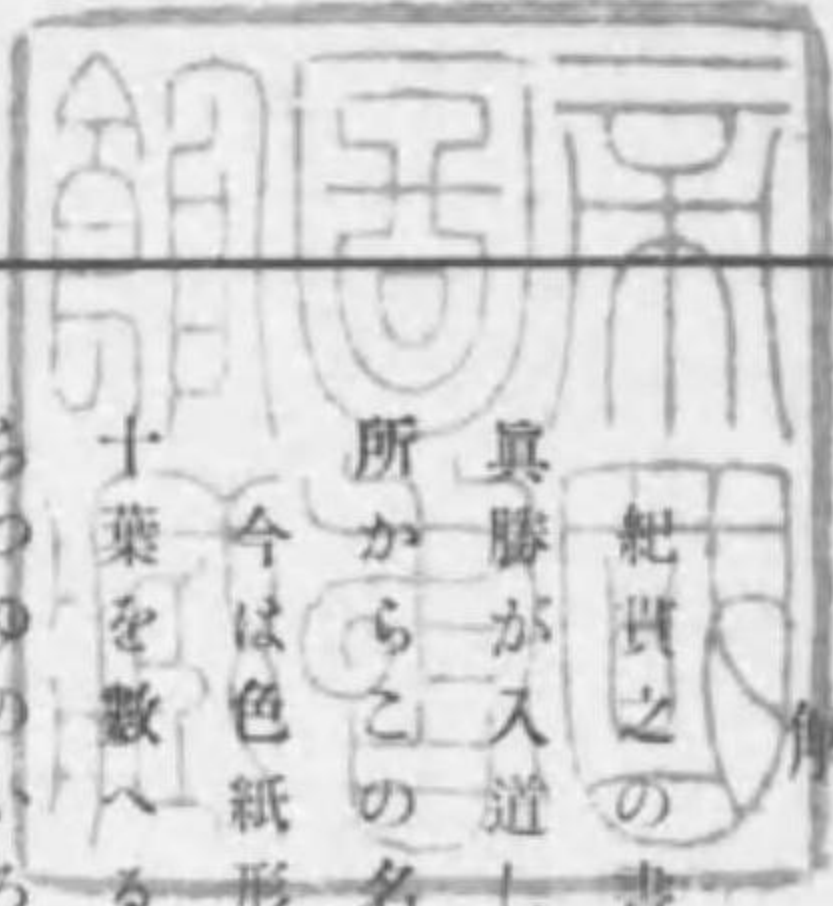
寸松菴色紙

釋文

全



30/10

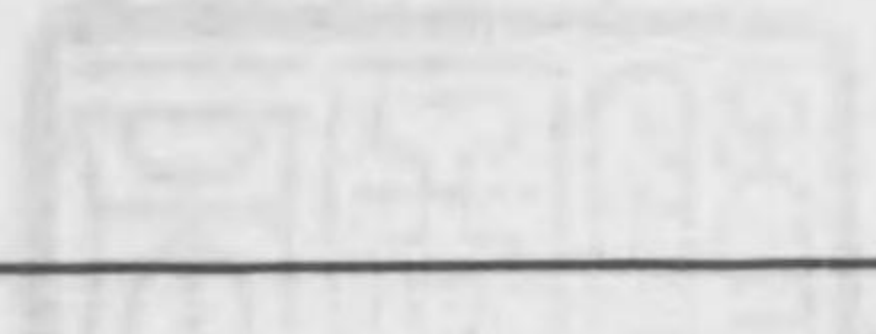


傳紀貫之筆 寸松庵色紙 解題並釋文

解題

紀貫之の書と傳へられる寸松庵色紙はもと織田氏の臣佐久間將盛  
眞勝が入道して京都紫野の寸松庵に住し、この書を珍藏愛玩して居た  
所からこの名が起つたものであると云ふ。

今は色紙形で、一葉々々ばらばらに各所に散在所藏され、その数は三  
十葉を數へるがもと、帖仕立のものであつたらしく、ごしゆきのし  
らつゆのいろははひとつをいかにして、秋の木の葉をちゝにそむらむの  
色紙に貫之の「秋風のふきにし日よりおとはやま峰の木すゑも色つき  
にけり」の一首が左文字で寫つて居ると云ふも、今この寫眞ではそれを  
見ることは出來ぬが、これから推すと帖仕立のものであり、且つ現存の  
三十枚以上に未だ他のものがあつたことが察しられる。



料紙は白、茶、赭、藍等の唐紙で、唐草、龜甲、草花、蟲類文様のある美しいものであるが、胡粉地の爲めに剝落して、文字のはつきり讀み得ないものがある。歌は古今和歌集の四季の歌中からとりくに選り抜いて書いたものらしく、現存三十葉には、四季の歌以外のものは一葉もない。色紙の大きさも、本帖所載のものが原寸である。

書者については従來紀貫之と傳へられてゐるけれど、何等根據がある譯でもない。又書風から云つても、貫之の書と傳へられてゐる他のものとは全く趣を異にしてゐる。變轉自在なる用筆の妙、秀麗高雅な筆致、假名の妙趣はこの色紙に止めをさすかと思はれるばかりのものである。傳道風の繼色紙、行成の舛色紙と共に、色紙中の三絶とも稱さるべきものと云はれてゐる。

釋 文

徒らゆ支

わ可せこ可ころもはる  
 さ免ふるごとに能べ  
 のみど利所いろまさ  
 利个類

无めの可を所で爾

うつしてとめたら(ば)  
 盤る者春久と  
 も可たみ那ら万  
 志

佐と、本みひともと可  
めぬさ久ら者那  
い多久那わび所我  
み者やさむ

さ支の大万うち君  
東し不れ者よはひ  
盤おいぬ志可者あれ  
ど花をし三れ者毛  
の於も悲も那し

みつ年

わ可や度の花見可て  
ら爾久る人盤ち  
利なむのち所こひ  
志可るべ支

東毛の利  
いろも可毛お那じむ  
可志爾さ久らめど  
とし不る悲と曾  
あらた万利个  
る

ふち者らの千可个

花のちるごとや可那  
し支者る可春見  
堂つ多の山のう久  
ひ春のこゑ

つらゆ支

夜しの可者支しのや

まぶき布久可せ

爾所この可遣佐へう

つろひ爾个利

本と支須那可奈

久佐とのあまたあ

禮盤なをうと万  
れぬおもふ  
毛の可ら

お裳ひいづると支盤  
の山能本と支須  
可ら久れなる爾  
不利天へ會那  
久

お万の可盤あさ勢  
志らなみたど利  
きのと毛能利

つゝわ多利者てぬ  
爾あヶ所し  
爾ヶる

あ支可せ爾盤つ可利  
がね曾支こゆなる  
堂可多万づさを  
うヶて支つらん

山佐とは秋こ曾こ  
と爾わびしヶれ志  
堂と見ね

可のねな久爾めを  
佐ましつゝ

お久山爾毛みちふ  
みわヶ那久し可  
のこる支久と支所  
あき者可那し

東しゆ支  
しらつゆのいろ盤  
悲とつをい可爾し天  
あきのこの者をち

爾所无らん

つらゆき

ちはや不る可みのい

可(支)爾者ふ久春も

あき爾者あへ春毛

みちし爾个利

多々見年

あ免ふれ盤可さ

と利山のもみち

盤(ゆ)支可婦人の

所で佐へ曾てる

支(の)ともの(利)

堂可た免の爾し

支那禮者可(あき)

ぎ利のさ(ほ)

の山べをたち可

久春覽

春可盤らのあ所ん

秋可せのふ支

あ个爾たて

流し

支九



盤

花可あら

ぬ可なみの  
よ春る閑

花見つゝ悲とまつと  
きのしろ多への所で  
かとのみ曾あやま多  
れ个る

徒らゆ支

さ支所めし  
やどし可盤れ

盤支久の花

いろさへ爾  
こ曾うつろひ

爾个禮

ふみわ个て  
佐ら爾やと盤む

裳みぢ  
盤の

不利可くし  
てしみちと  
見那可ら

見<sup>み</sup>やまより於<sup>お</sup>ち  
 お支<sup>し</sup>可<sup>か</sup>せ  
 き<sup>き</sup>のこ  
 春<sup>はる</sup>のちる  
 と万<sup>ま</sup>可<sup>か</sup>婦<sup>ふ</sup>  
 爾<sup>に</sup>  
 わ可<sup>か</sup>支<sup>し</sup>徒<sup>つ</sup>る  
 みちもし  
 久<sup>く</sup>ら婦<sup>ふ</sup>  
 ら禮<sup>れ</sup>春<sup>はる</sup>  
 山  
 るごは

志<sup>し</sup>ものた(て)つゆの  
 ぬ支<sup>し</sup>こ曾<sup>そ</sup>もろ可<sup>か</sup>  
 羅<sup>ら</sup>し山の爾<sup>に</sup>し支<sup>し</sup>  
 のおれ者可<sup>か</sup>つち  
 せ支<sup>し</sup>を  
 ち者<sup>し</sup>やぶる  
 可<sup>か</sup>みよも志<sup>し</sup>  
 羅<sup>ら</sup>春<sup>はる</sup>た  
 つ多<sup>た</sup>可<sup>か</sup>  
 盤<sup>は</sup>  
 可<sup>か</sup>ら久<sup>く</sup>れ  
 なる爾<sup>に</sup>  
 み徒<sup>つ</sup>久<sup>く</sup>と

久るみづのいろみ  
て所秋盤可支利と  
おも悲し利ぬる

つらゆ支

遊ふづ久よを久ら  
の山爾那久し可の  
こゑのうち爾や秋  
盤久るらん

みつ年

道志らばたづ年  
毛遊可むもみち

盤をぬ佐とた  
无个て秋盤

い爾个利

志らゆ支のところ  
もわ可春ふ利し个

者い者本爾もさ  
久花可と曾三  
流

む免の可能ふ利お  
つらゆ支

个<sup>け</sup>るゆ<sup>ゆ</sup>支<sup>あ</sup>にう<sup>う</sup>つ利<sup>り</sup>  
せば<sup>せ</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>可<sup>か</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>  
わ<sup>わ</sup>支<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>万<sup>ま</sup>志<sup>し</sup>

昭和十年七月二十日印刷  
 昭和十年七月廿五日發行  
 定價金貳圓參拾錢

東京市下谷區中根町七一丁目田基會  
 編輯者 かな名蹟全集刊行會  
 代製者 武田基一  
 東京市下谷區中根町七一  
 發行人 武田基一  
 東京市下谷區南平住町六一六〇  
 印刷人 黒川秀藏

發行所 東京市下谷區中根町七一  
 武田墨彩堂  
 電話 根三三七番  
 郵便東京六〇五四八番

しつぱんきん  
しつぱんきん  
しつぱんきん  
しつぱんきん  
しつぱんきん



しつぱんきん  
しつぱんきん  
しつぱんきん  
しつぱんきん  
しつぱんきん



けい、ちを、Kewo  
め、あ、あ、あ、あ、あ  
に、あ、あ、あ、あ、あ  
あ、あ、あ、あ、あ

ち、あ、あ、あ、あ、あ  
あ、あ、あ、あ、あ、あ  
あ、あ、あ、あ、あ、あ  
あ、あ、あ、あ、あ、あ  
あ、あ、あ、あ、あ、あ  
あ、あ、あ、あ、あ、あ

みよ

わろ度のたらんろそ

らんろそらんろそ

らんろそらんろそ

らんろそらんろそ



ちよそのち

いふもつえおし

いっせよこ

いっせよこ

あつたーり

ち

Handwritten text on a patterned paper strip, oriented vertically. The text is written in cursive and appears to be a signature or name, possibly "Mrs. G. S. Green".

~~~~~

おののたまのた

たのたまのたま

たのたまのたま

たのたまのたま

かゝるはゆり  
くはのあまたあ  
れきなをく  
しあまじ  
えのら

おきしひりつちまよそ  
の山は命をいすま  
いふれたかひ  
らりていふれ

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or notes, consisting of several lines of text.

あ  
あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

あまのつらさ  
の  
なつかしき  
こと

あまのつらさ  
の  
なつかしき  
こと



156

1865

1865

1865

1865

い

ちけりるみめ、

い

あ

ち

いーかーか

あーあーあーあーあー

とーらーのとも

あーあーあーあーあー

あーあーあーあーあー

...

...

...

...

...

...



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho). The text is arranged in several vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, typical of the cursive script.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho). The text is arranged in several vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, typical of the cursive script.

かろき  
なま  
15  
20  
30  
40  
50  
60  
70  
80  
90  
100

100  
90  
80  
70  
60  
50  
40  
30  
20  
10  
0

おまへ  
おまへ  
おまへ  
おまへ  
おまへ

おまへ  
おまへ  
おまへ  
おまへ  
おまへ



Handwritten text on a small rectangular piece of paper, oriented vertically. The text is written in a cursive script and appears to be a list of names or words, possibly related to a collection or inventory. The words are arranged in five vertical columns, reading from right to left. The characters are somewhat stylized and difficult to decipher precisely, but they appear to be: 1. 1850, 2. 1851, 3. 1852, 4. 1853, 5. 1854.

525

1877

1878

1879

1880

1881



301  
10

昭和十年七月二十日印刷  
昭和十年七月廿五日發行  
定價金貳圓參拾錢

第八卷  
本配同  
[全]紙色著松寸

發行所  
東京市下谷區中野町七二  
武田圖書發行會  
電話東京六〇五八

東京市下谷區中野町七二  
武田圖書發行會  
電話東京六〇五八

終

